



取り組むべき課題山積 その2 将来を見据えた政治

景気回復はどこの話？

2016年の国民生活基礎調査によると、①「生活が苦しい」と感じている人の割合は56.5%、②「生活が苦しい」と感じている母子世帯の割合は82.7%、③「生活が苦しい」と感じている児童のいる世帯の割合は61.9%となっています。

日本の所得格差は

戦神億35ヶ国中7番目！

また、別の数字を覗てみると、相対的貧困率が15.6%です。「相対的貧困率」とは、所得の中央値の半分を下回っている人の割合で、その国の所得格差を表している数字です。平成27年度の日本の所得の中央値が245万円なので、貧困ラインを下回っている人の年収は、122.5万円、月収でいうと約10.2万円です。これに当てはまる人が日本では15.6%、6.5人に1人が貧困ということです。

このような実態になってしまっている背景には非正規労働の増加があります。2016年度の非正規労働者の数と割合は、総務省「労働力調査」のよれば2023万人（37.5%）です。働く人の10人に4人がいつ失業するかもしれないという働き方をしてい

るのです。1年後の自分をイメージすることが出来ない労働環境では、人生設計も思うように出来ません。仕事のスキルを上げるための研修の機会も、正規の労働者の半数しかありません。希望の格差です。

給与200万円以下の給与所得者、いわゆるワーキングプアといわれる人の数は国税庁の調査によれば、1130万人にもなっています。しかし、そんな中で企業の儲けの蓄えはこの4年間で33.5%も増えています。理由は法人税の大減税が行われていることと、非正規雇用の人たちや外国人労働者を安く使っているからです。

約半数が、貯蓄ゼロでぎりぎりの生活

このような労働者の貧困の実態が、年代別貯蓄ゼロ世帯の数としても現れています。各世代で少しのばらつきはありますが、20歳代59.3%、30歳代47.3%、40歳代50.1%など高い率を表しています。これは2016年、日本銀行金融広報中央委員会が単身世帯について調査をしたものです。これでは、20代～40代の多くが貯蓄も出来ないぎりぎりの生活を強いられ、自分ひとり生きるのが精一杯で、結婚して小作りなど

ありえません。少子化は加速します。

現に、厚生労働省の17年度の人
口動態統計によると、出生数が2年
連続で100万人割れとなりました。
合計特殊出生率（一人の女性が生涯
に産む子どもの数）が前年比0.01
ポイント減の1.43となり、2年連
続で低下しました。人口維持に必要
とされる合計特殊出生率は2.07と
されますので、遠く及びませんでし
た。死亡数は134万人で、出生数を
引いた人口の自然減は39万4373
人でした。

将来の世代にわたって、 持続可能な国づくりを！

今だけではなく、将来の世代にま
で持続可能な国づくりを行うのが政
治の使命です。しかし、若者を貧困
に追い込み、有効な少子化対策も取
れない現在の政治、高齢社会、人口
減少の社会に向けてどのような対策

をしていくのかも見えない現在の政治
が、将来を見据えているとは到底言え
ません。

憲法では「すべての国民は、健康で
文化的な裁定限度の生活を営む権利を
有する」（25条1項）と謳われています。
憲法を守って、将来にわたって安心で
きる国づくりをする政治が、私たちの
願いです。

願いを政治に伝えましょう。

官邸

<http://www.kantei.go.jp/jo/iken/html>

電話 03-3581-0101

安倍晋三事務所 電話 03-3508-7172

FAX 03-3508-3602

自民党本部 〒100-8910

東京都千代田区永田町 1-11-23

電話 03-3581-6211 (代)

FAX 03-5511-8855

公明党本部

<http://www.koumei.or.jp/contact/>

電話 03-3353-0111 (大代)

FAX 03-3353-0457

(公明党広報部)

◎市民講座&カフェの報告

■学習会「市民から見た さいたま市議会・県議会」

4月22日（日）土合公民館

昨年、12月のさいたま市議会に市民から「教育出版の道徳
教科書使用中止を求める請願」が提出されました。「ポーズを
決める安倍首相」との写真が掲載され、政治利用と問題になった教科書です。

来年春から中学校で教科となる道徳教育と、教科書について、子どもの人
権埼玉ネットの斎藤紀代美さんよりお話を伺いました。また、昨年12月の
県議会で、議員が起案し国に提出した「原発再稼働を求める意見書」に対す
る抗議行動については小高が報告しました。

■おしゃべりカフェ「憲法について PART 2」

5月26日（土）大久保東公民館

昨年9月に開催した「憲法について」のおしゃべりカフェの第2弾。
6月17日の市民講座「憲法を見直す」の事前学習を兼ねて、本年2月に朝
日新聞に連載されていた『教えて！憲法 基本のき』1～8を読んで学習す



る予定でした。しかし当日は、ポスティングチラシを見て初めて参加してくれたUさんの天皇制についての話で盛り上がり、それぞれが意見を述べ合いました。予定した内容の学習会とは異なりましたが、なかなか興味深い「おしゃべりカフェ」になったと思います。途中までとなった新聞記事での学習会は次回に持ち越そうということになりました。

麻生財務大臣は辞任しなければ道理が通らない

財務省は、文書改ざんの調査結果を発表して職員の処分を発表しました。その長である麻生財務大臣は自分のことは処分せず、閣僚給与1年分の170万円を自主的に返還すると表明しました。

今回起こした文書の書き換えは、その時代に日本で行われた政治、歴史を改ざんしてしまうことです。改ざんした文書を国会に提出して、その文書に基づいて国会は1年間も議論をしてきてしまいました。国民の代表の国会議員をだましたということは国民をだましたということ

です。民主主義の根幹にかかわることです。麻生財務大臣は、責任を取って辞任するのは当然のことです。

安倍首相も自分が辞職することでもせず、麻生財務大臣も続投させようとしています。その理由はただひとつ総裁選での3選です。細田派（96人）に次いで2番目に人数が多い麻生派（59人）を切ることが出来ないのです。自分の身分を守って、悲願の憲法改正をしたいために、歴史も民主主義も投げ捨てようとしているのです。



切り抜き帳



◆横田基地配備予定オスプレイ、早くも緊急着陸

6月4日午後、オスプレイ2機が鹿児島県の奄美空港に緊急着陸しました。防衛省によると、緊急着陸したオスプレイは、今年4月、米軍横田基地に正式配備する予定で飛来した5機のうちの2機でした。5機はその後、いったん横田基地を離れていましたが、5月29日に再び横田基地に戻っていました。今回緊急着陸した2機は、横田基地を飛び立って沖縄の嘉手納に向かっていたという。（東京新聞）

※横田基地に配備する前にもかかわらず、4月以降は繰返し基地に立ち寄るオスプレイが確認されています。そして早くも緊急着陸です。オスプレイは製造時期からこれまで繰返し事故を起こしており、オスプレイの飛行が危険なことは分かりきっています。政府はすぐに飛行中止を申し入れて欲しいと思います。

◆今最も重大なモリカケ

『国会はいつまでモリカケに振り回されているのか！審議すべきもっと重要

な案件があるだろう的な声が出ている。特に政府・与党側からもの種の言い方がでてくるのがなんととも耐えがたく不愉快だ。

嘘をついているかもしれない人たちが相手に国会審議は出来ない。事実に基づいてものをいっていないかもしれない人びとはともに議論が出来るわけではない。議論の土台が崩れてしまっているかもしれないのに、議論を行うことは欺瞞を容認することにつながるので、付き合っってはいけない行為だ。

TPPだろうが、働き方改革であろうが、それらのことに関する国民の意思決定のために議論をかさねる。国会議員は、この権限を国民から移譲されている。しかし議論のための提案をする側に改ざんや隠蔽の疑いが出ている。この状態を是正すること以上に重大なことがあるというのか』

(「東京新聞・浜矩子氏」より)

【会の活動報告】

○駅頭活動

- *改憲反対3000万人署名 4月18日 中浦和駅
5月 9日 南与野駅
5月23日 西浦和駅
- *東海第二原発の運転期間 6月 6日 中浦和駅
延長をさせない請願

○学習会

- *4月22日「市民から見た さいたま市議会・県議会」

○おしゃべりカフェ

- *5月26日「憲法について PART 2」

○請願提出(さいたま市議会)

- *5月29日「オスプレイ配備中止を求める請願」

○会議

- *運営スタッフ会議 4月22日、5月26日
- *事務局会議 5月 9日、6月 6日



【これからの予定】

- *6月17日 土合公民館
14時～ 市民講座「憲法を見直す」三輪隆先生
16時～ 運営スタッフ会議
- *6月20日 18時～ 署名活動 南与野駅

桜区平和を考える会発行

ホームページは、「桜区平和」で検索！

<http://spa.g1.xrea.com/>

連絡先：090-8588-4966 (今井) 090-4433-7092 (小高)
090-6120-3411 (佐藤)

振込口座：ゆうちょ銀行

口座番号：00270-8-104990

加入者名：桜区平和を考える会

年会費：1,000円

振込手数料はご負担ください

会員募集中！
カンパ歓迎

